

悔い改めと赦し



2026年6月6日 第10課

自分の罪を公に言い
表すなら、神は真実で
正しい方ですから、
罪を赦し、あらゆる
不義からわたしたちを
清めてくださいます。

(1ヨハネ 1:9 新共同訳)



もし、わたしたちが
自分の罪を告白する
ならば、神は真実で
正しいかたである
から、その罪を
ゆるし、すべての
不義からわたしたち
をきよめて下さる。

(1ヨハネ 1:9 口語訳)

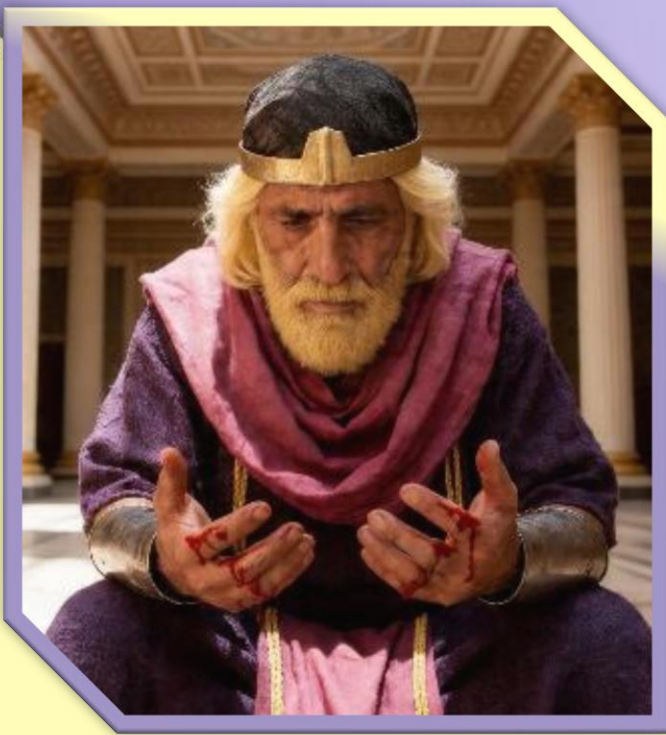


聖書は「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができない」（ロマ3:23）と述べている。

また、私たちには自分の罪を避けたり取り除いたりすることはできないとも記されています（エレ13：23、2：22）。

しかし、神は私たちの罪を赦してくださるお方です。どんなに重大で恐ろしい罪であっても、神が赦そうとされないものなどありません（イザ1:18）。

条件はただ一つ、悔い改めです。



悔い改め:

➡ 慌ただしい生活

➡ 聖霊の促し

➡ 真の悔い改め



赦し:

➡ 十分な恵み

➡ 最も高価な衣服



悔い改め



慌ただしい生活

主は答えられた。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。」(ルカ 10:41 新共同訳)

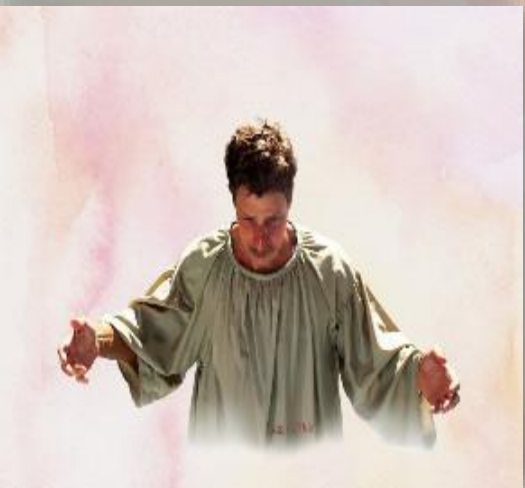
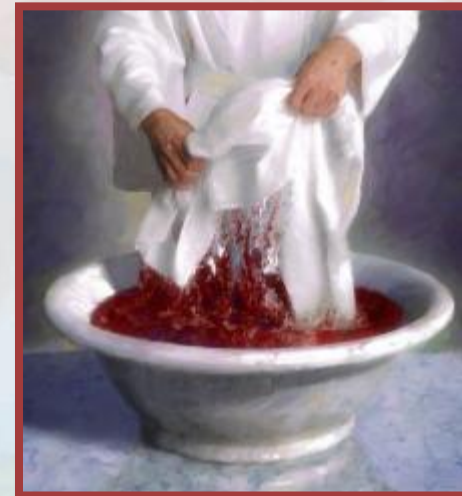
ラザロの家で、イエスは救いにとって極めて重要な事柄について語られました。しかし、マルタは耳を傾けませんでした。彼女には時間がなかったのです。やるべきことが山ほどあったからです！(ルカ10:40-41)



私たちにも同じようなことが起こります。罪を犯したとき、聖霊が悔い改めへと招いてくださっても、サタンは私たちを活動や心配事、あるいはその他の気晴らしで満ちし、罪深い自分の状況を振り返り、赦しを求めることを妨げようとするのです。



しかし、神は決してあきらめません。神は絶えず私たちを招き続けておられます(エゼ33:11)。神は私たちの罪を汚れた衣に例えられます(イザ64:6)。そして、私たちの汚れた衣と引き換えに、神の清い衣を授けてくださいます(ゼカ3:4)。それは、イエスの血によって洗われた衣なのです(黙7:14)。



イザヤ 64:5(口語訳 64:6) 「わたしたちは皆、汚れた者となり正しい業もすべて汚れた着物のようになった。わたしたちは皆、枯れ葉のようになりわたしたちの悪は風のようにわたしたちを運び去る。」

ゼカリヤ 3:4、御使いは自分に仕えている者たちに向かって言った。「彼の汚れた衣を脱がせてやりなさい。」また、御使いはヨシュアに言った。「わたしはお前の罪を取り去った。晴れ着を着せてもらいなさい。」

イザヤ 61:10 は、わたしは主によって喜び楽しみわたしの魂はわたしの神にあって喜び躍る。主は救いの衣をわたしに着せ恵みの晴れ着をまとわせてくださる。花婿のように輝きの冠をかぶらせ花嫁のように宝石で飾ってくださる。

キリストの義という重要な真理を私たちにどのように示しているのでしょうか。
なぜ私たちは、これらの聖句において神が約束してくださることに、常に熱心にすがり続けなければならないのでしょうか。

聖霊の促し

さあ、【主】に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちを打ったが、包んでくださるからだ。(ホセア 6:1 新共同訳)

悔い改めとは何でしょうか。真の悔い改めと偽りの悔い改めの違いは何でしょうか。(2コリ 7:10)

罪が即座に望ましくない結果をもたらすと、後悔が湧き起こります。それは、自分のしたことがうまくいかなかったことへの悔しさです。もし悪い結果が伴っていなければ、自分の行動に対して悲しみを感じることもなかったでしょう。これは、真の悔い改めではありません。

罪を犯したという事実そのものが、私たちに悲しみと、赦されたいという深い願いを抱かせる時(たとえそれが悪い結果を招いたかどうかに関わらず)、私たちは真の悔い改めに直面しているのです。

私たちが罪を犯すとき、聖霊は深い悲しみの感情をもって私たちを「引き裂き」、「傷つける」。もし私たちが真の悔い改めをもって応えるなら、神は私たちを癒し、罪を赦してくださる(ホセア 6:1)。



あなたが最後に叱責や悔い改めの呼びかけを
聞いたのはいつですか。

そのとき、どのように応じましたか。

今すぐ少し時間を取って祈り、
今週、神があなたの心を和らげ、
御言葉を通して語られる御声に
耳を傾けられるよう、神に願い求めましょう。

真の悔い改め

ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。(使徒言行録 3:19 新共同訳)

洗礼者ヨハネとイエスは、同じメッセージ、「悔い改めよ」をもって宣教を始めました(マタ3:1-2、4:17)。

なぜ悔い改めが重要なのでしょうか。それは、悔い改めがなければ罪の赦しは得られないからです(使2:38、3:19)。このプロセスはどのように起こるのでしょうか。

神の憐れみが、私たち
を悔い改めに導く
(ロマ2:4)

私たちは主の呼びかけに応えます

犯された過ちに対
する心からの悲し
みを込めて

罪を捨てるという
誠実な決断によっ
て

神は、イエスが十字架
上で流された血によっ
て、私たちの罪を赦し
てくださいます
(コロ 1:13-14)

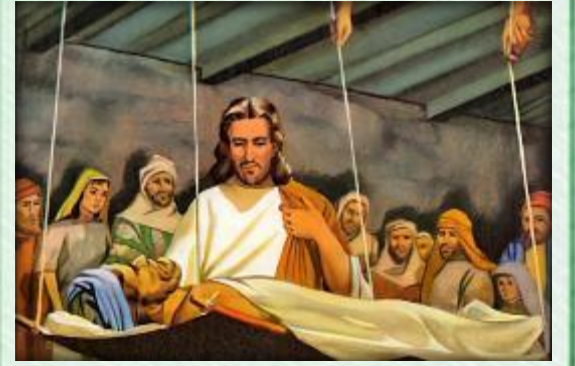
悔い改めと赦しは、常に私たちの心を変え、罪を犯すことをやめるような態度への転換へと導くものであることを覚えておきましょう(ヨハネ5:14)。



悔い改めは命へと導く（使徒11:18）

この言葉を聞いて人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ」と言って、神を賛美した。

ものであり、神との関係を成長させる上で欠かせない要素です。自らを神に委ね、悔い改め、神に自分を整えていただくという過程において、あなたにとって最も難しいと感じることは何ですか。



赦し



十分な恵み

【主】よあなたの御名のゆえに私の咎をお赦してください。それは大きいのです。
(詩編 25:11 新共同訳)



神が私たちが赦さなければならないという義務は、何一つありません。また、私たちはその赦しに値するような行いをするなど到底できません。神は恵みによって、すなわちその限りない愛によって、私たちに赦しを与えてくださるのです。神が赦してくださる理由は、神が「慈愛に満ち、赦すことを喜び、あわれみに富む方」だからです（詩86:5、出34:6-7参照）。

その愛ゆえに、御子イエスは自ら十字架にかかり、私たちが支払うことのできない罪の代価を支払ってくださったのです（エフェ2:4-5）。



私たちが自分の罪を十字架の足元に差し出すとき、イエスは私たちが重くのしかかる重荷から解放して下さいます
(ヘブ 12:1-2)



十分な恵み

【主】よあなたの御名のゆえに私の咎をお赦してください。それは大きいのです。
(詩編 25:11 新共同訳)

罪と恵みの関係とはどのようなものですか？

罪と恵みの関係

ロマ 5:8

「私たちがまだ
罪人であった
とき」

「キリストは
私たちのために
死なれた」

ロマ 5:20

「罪が増した
ところに」

「恵みはいっそう
満ちあふれた」

ロマ 5:21

「罪が死によって
支配していた」

「恵みが支配し
……永遠の命へ
と至るように」

ロマ 6:23

「罪の報いは
死である」

「神からの賜物は
永遠の命である」



次の聖句をゆっくり読み、あなたに対する神の恵みについて、これらの聖句が語りかけてくることを自分の言葉で書き記してください。

- 「罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです」〔口語訳「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである」〕(ロマ**6:23**)。
- 「しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです」〔口語訳「しかし、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。それは、罪が死によって支配するに至ったように、恵みもまた義によって支配し、わたしたちの主イエス・キリストにより、永遠のいのちを得させるためである」〕(ロマ**5:20、21**)。
- 「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」〔口語訳「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである」〕(ロマ**5:8**)。

最も高価な衣服

王はその人に言った。『友よ。どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。』
しかし、彼は黙っていた。(マタイ 22:12 新共同訳)

神の教会、そしてそのすべての教会員は、「清く輝く、しみも、しわも、そのようなものが一切ない」上質な麻布を身にまとっている(黙19:8、エフェ5:27)。

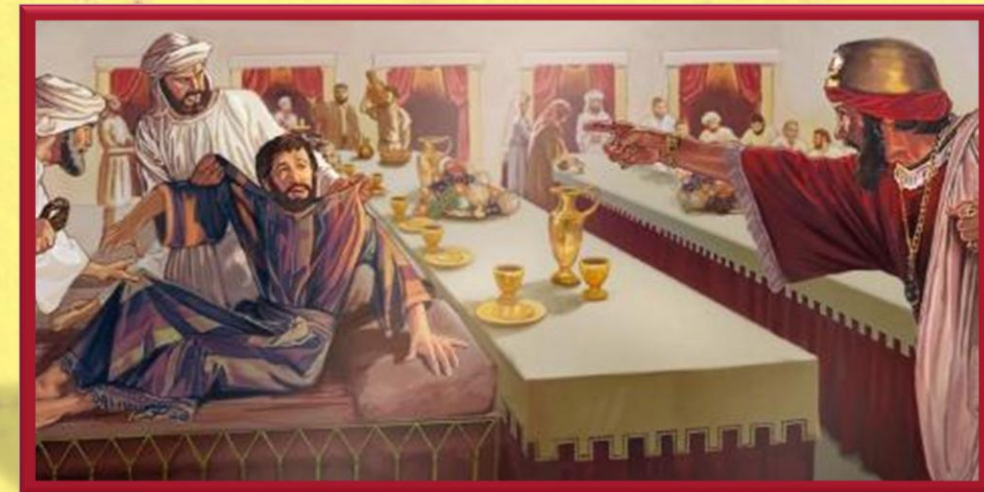
この上質な亜麻布は、「聖徒たちの正しい行い」(黙19:8b)の象徴です。しかし、この義は彼ら自身のものというのではなく、キリストによって彼らに与えられたものです(黙7:14)。



アダムとエバが罪を犯したとき、彼らは自分の手で作ったもので裸を覆いました。しかし、彼らは依然として、神の前では自分が裸であると感じていました(創3:7-10)。神が与えてくださった衣は、キリストが私たちに与えてくださる「婚礼の衣」、すなわち私たちの罪を消し去るキリストの完全な義の象徴でした(創3:21、詩51:7-10)。



その衣を身にまとわなければ、だれも天国に行くことはできない(マタ22:1-14)。



考えてみましょう：私たちは毎日、イエスの義の衣を身にまとうことを選ぶべきです。これは実際にはどういう意味なのでしょう。また、どうやってこれを実践すればよいのでしょうか。

「神の子となろうとする者は、悔い改めと赦しは、キリストの贖いによってのみ得られるという真理を受け入れなければならない。このことを確信した罪人は、自分のために成し遂げられた御業にふさわしい努力を尽くし、神の刷新の力が自分の魂に注がれるよう、倦むことなく恵みの御座に懇願しなければならない。キリストは悔い改める者以外を赦さないが、赦される者には、まず悔い改めさせてくださる。備えは完全であり、キリストの永遠の義は、信じるすべての魂の帳簿に記されている。天の織機で織り上げられた、高価で汚れのない衣は、信じる罪人のために用意されている。」